日本食品化学学会　第 42 回食品化学シンポジウム

食品中の有機フッ素化合物（PFAS）に対する取り組みの現状と今後

-開催趣旨-

近年、有機フッ素化合物のうち、PFAS（ペル及びポリフルオロアルキル化合物）については、国内外で関心が高い状況が継続しています。食品中の PFAS は、人における主要なばく露源となりうることから、リスク評価やリスク管理の観点から特に重要な課題となっています。PFAS には非常に多くの化合物が含まれますが、なかでも PFOS と PFOA は代表的な PFAS として知られており、これらを中心に各国でリスク評価やリスク管理が進められています。日本においても 2024 年に食品安全委員会が食品健康影響評価を実施しており、その結果を踏まえて、関係省庁においてリスク管理措置の検討や試験研究等が進められています。

本シンポジウムでは、「食品中の PFAS に対する取り組みの現状と今後」をテーマに、7 名の先生方にご講演いただきます。前半では、行政機関における取り組みのほか、PFAS による健康影響評価の動向についてご講演いただきます。後半では食品中の PFAS 分析法や摂取量調査を中心に、国立機関、受託分析機関、並びに分析機器メーカーにおける取り組みについてご講演いただきます。本シンポジウムが食品中の PFAS に関する業務に携わる皆様にとって、今後の業務推進の一助となれば幸いです。

≪プログラム≫　（予定）

シンポジウム HP
http://www.jsfcs.org/2026/11/content-1.html

13:00-13:05　開会挨拶　堤 智昭（国立医薬品食品衛生研究所　食品部長）

13:05-13:40　講演①　最近の食品衛生の動向　PFAS への対応を中心に
消費者庁 食品衛生基準審査課長 髙江慎一

13:40-14:15　講演②　農林水産省における PFAS に対する取り組み
―農畜水産物の実態調査や試験研究について
農林水産省 消費・安全局 食品安全政策課企画官 漆山哲生

14:15-14:50　講演③　PFAS による健康影響評価の動向について
一般財団法人化学物質評価研究機構 広瀬明彦

（14:50-15:05　休憩）

15:05-15:40　講演④　食品中 PFAS 分析の実務ポイント―固相抽出クリーンアップを中心に―
ジーエルサイエンス株式会社 高柳 学

15:40-16:15　講演⑤　食品中 PFAS の分析法開発の現状と課題―国立衛研における試験研究―
国立医薬品食品衛生研究所 食品部 山﨑由貴

16:15-16:50　講演⑥　受託分析機関における PFAS 分析の取り組み
―一般財団法人日本食品分析センター 猪之鼻修―

16:50-17:15　講演⑦　AOAC International の OMA 採択を目指した取り組み
株式会社島津製作所 前島 希

17:15-17:20　閉会挨拶　小川 久美子（日本食品化学学会 理事長）

17:20-　名刺交換会

○ 日　時：2026 年 11 月 27 日(金) 13:00-17:20（受付開始 12:30）
○ 場　所：Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
（神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-40）
○ 定　員：150 名程度
○ 参加費：※当日の参加申込受付はありません
シンポジウム参加費：会員 2,000 円、非会員 4,000 円、学生無料
名刺交換会費：一律 1,500 円
○ 参加申込：本学会 HP の参加申込フォーム、
または右の QR コードよりお申し込みください。